

文化と教育の発展のために

シンポジウム「アジア太平洋における地域協力の現在」

文：土屋恵里（文化協力課）

2009年12月10日（木）、シンポジウム「アジア太平洋における地域協力の現在—文化と教育の発展のために」が東京で開催されました。アジア太平洋諸国からの参加者は、ACCU設立以来の図書事業の関係者とEFA^{※1}やNFE^{※2}事業の教育関係者、総勢63名。日本からも文化と教育の関係者20名ほどが出席しました。

来年度からACCUの無形文化遺産事業と図書事業がなくなり、教育協力事業と人物交流事業にフォーカスを当てていくことが決まりました。そこで、文化協力課と教育協力課が、アジア太平洋各国からこれまでの図書と教育分野の事業関係者を招へいし、共同でシンポジウムを開催しました。このシンポジウムは、文化協力課の「アジア太平洋における図



シンポジウム開会



佐藤禎一氏の基調講演

書開発と読書推進に関する専門家会議（12月8～10日）」の第3日目のプログラムとして、また教育協力課の「EFA振興のためのノンフォーマル教育政策プログラム専門家会議（12月10～12日）」の初日のプログラムとして行われました。

シンポジウムには、両会議のために招へいされたアジア太平洋地域からの参加者および文化と教育の関係者が出席しました。パネリストは、東京子ども図書館理事長の松岡享子氏、タイ教育省教科書開発局のウサニー・ワタナパン氏、モンゴル国立ノンフォーマル遠隔教育センター（LRC^{※3}）のパチェルン・イェンブー氏、アジア南太平洋成人教育基礎教育ビューローのティモテ・バイオレティ氏、インドネシア・ユネスコ国内委員会会長のアリーフ・ラーマン氏。ノンフォーマル教育や図書館活動、読書推進などに関する各国または各地域の現状とそれぞれの活動について発表し、その後、参加者との質疑応答が行われました。

ACCUの事業が活かされて

パネリストからは、1970年代からのACCUのアジア太平洋地域における貢献・功績について言及され、教育分野に関しては今後

ACCUに期待することについて提案されました。ワタナパン氏は、ACCUの図書開発事業、特にアジア太平洋共同出版プログラム（ACP）に参画したことにより、タイの図書出版関係者の人材育成が図られた他、多くの恩恵を受けたと言及されました。ACCUや各ACCU事業参加国の読書推進の具体例から学び、学校や図書館で読書習慣の推進が行われたという報告がありました。

松岡氏も設立当初から図書出版事業にご協力いただいた中で、ACCUからマスター版として英語で出版され、以後日本で日本語に翻訳出版された「アジアの昔話」を例に、ACCUの制作物がどのような形で活用され、子どもたちに親しまれているかを語りました。図書館の児童書コーナーに必ず置かれているという「アジアの昔話」。学校や図書館で読み聞かせに活用されており、松岡氏は読み聞かせの際に、「どのようにしてこの本が作られたのか」「アジアの国々で同じ本が読まれて、子どもたちが楽しんでいる」ということを子どもたちに伝えているそうです。

また、モンゴルの例では、イェンブー氏からPLANET^{※4}の活用と適用について報告されました。モンゴルでは、NGOや学校などでPLANETを導入・利用しており、特に現地の気候風土や文化に合ったイラストに適応して利用されています。さらに、少数民族の言

パネリスト



東京子ども図書館理事長
松岡享子



タイ教育省教科書開発局
ウサニー・ワタナパン



モンゴル国立ノンフォーマル
遠隔教育センター
パチェルン・イェンブー



アジア南太平洋成人教育
基礎教育ビューロー
ティモテ・バイオレティ



インドネシアユネスコ
国内委員会会長
アリーフ・ラーマン

※1 Education for All（万人のための教育）の略称。

※2 Non-Formal Education（ノンフォーマル教育）の略称。

※3 Literacy Resource Centres for Girls and Women（女性のための識字教育センター）の略称。各国の識字推進NGOや政府の専門機関等が協力し、より効果的な識字活動を推進するために設置しているセンター。現在17か国で18のLRCが活動し、この分野の有数のネットワークのひとつとなっています。

※4 Package Learning Materials on Environment（環境に関するパッケージ教材）の略です。<http://www.accu.or.jp/esd/jp/planet/index.html>



パネリストによるプレゼンテーション

語に翻訳・配布することにより、PLANETがモンゴルで広く活用されていることが報告されました。このようなPLANETの普及によるモンゴル国内の識字率向上、教育環境改善への貢献についても述べられました。

活発な議論と質疑応答セッション

パネリストの発表後には、会場から多くの質問が出され、最後に予定されていたパネリストからのコメントの時間がなくなってしまったほどでした。各パネリストのプレゼンテーションと、会場からの質疑応答では、3つの共通の課題が議論されました。

まず、文化の多様性とグローバル化について。シンポジウムの冒頭、日本政府ユネスコ常駐代表部大使を務められた、国際医療福祉大学・大学院の佐藤禎一氏には、ユネスコの掲げる文化の多様性条約の歴史の変遷や、文化・教育サービスの流通、世界の調和とグローバル化とのバランスについて基調講演をいただきました。それを受けて、パイオレティ氏やラーマン氏からは、インドネシアや太平洋諸国では多様な民族が多様な言語や文化のもとに生活しており、平和教育の必要性があると語られました。一方、ワタナパン氏は、そのような文化の多様性を大切にしつつ、外国語を学び、世界経済に参画していく力を身につけていく教育も必要であると発言されました。

次に、予算不足や政策的軽視の問題について議論されました。図書開発・読書推進、ノンフォーマル教育とともに、政府の意識改革や政策転換が必要であるという意見が多く出されました。政府が経済や軍事政策などにより重点を置いているのが現状であり、図書開発や文化の振興、教育政策は比較的軽視されがちであること、それが予算配分にも反映されてしまうということは、どの国においても共通して言えることのようにです。

最後に、未来を担う若者を対象としたプログラムが必要であるとの議論がなされました。文化や伝統の知識を継承するために、高齢者と若者の交流を促進し、世代間の理解を深められるようなプログラムにもっと焦点を当てるべきではないかとの意見がインドの参加者から出されました。それに関して、LRCやコミュニティセン



参加者から多くのコメントや質問が出された

ターの役割が重要であるという意見や、ACCUにもそのようなプログラムをもっと行ってほしいという要望も聞かれました。モデレーターを務めた佐藤理事長(当時)からは、文化協力課で行っている無形文化遺産プロジェクトのうち、青少年への継承に成功しているコミュニティの事例を集めたコンテストについて紹介されました。

文化・教育分野の地域協力の発展を願って

シンポジウムは、文化の多様性を保持しつつ、グローバル化する世界に対応し、各国が抱える共通課題を互いに理解し、解決して行こうという願い、そして、今後のACCUと文化・教育分野での域内協力への期待とともに閉会しました。参加者からは、ACCUの図書事業と無形文化遺産の事業に終止符が打たれることを惜しむ一方、今後のアジア太平洋地域の図書開発・読書推進、ノンフォーマル教育などの分野における更なる発展への強い願いが感じられました。



参加者の様子



会場にはこれまでのACCU制作物が全て展示された